

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の経済情勢は、米国では緩やかな回復が続いたものの、欧州財政危機への不安が世界経済に影響を及ぼし、アジアでも中国をはじめとして景気の拡大テンポが鈍化するなど、世界経済は減速感が広がりました。一方国内経済は、復興需要等を背景として景気は緩やかに持ち直しつつも、円高や海外景気の減速など、不透明感が強まりました。

このような状況の下、当社グループは、当期を最終年度とする三カ年の中期経営計画「ステージアップ2012ー新たな挑戦ー」の基本方針である「持続的成長を可能にする収益基盤の確立」「財務構造改革の継続」「地球環境問題への対応と貢献」に基づき、市場や需給環境の変化にスピード感を持って対応するとともに、各事業課題の解決に向け、取り組んでまいりました。

この結果、当社グループの連結売上高は前年同期に比べ8億6千7百万円減の3,107億7千5百万円、連結営業利益は64億6千1百万円減の161億8千8百万円、連結経常利益は60億4千6百万円減の146億7千6百万円、連結四半期純利益は37億1千万円減の84億6千1百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結四半期純利益
当第2四半期	3,107億円	161億円	146億円	84億円
前年同期	3,116億円	226億円	207億円	121億円
増減率	△0.3%	△28.5%	△29.2%	△30.5%

セグメント別の概況は以下のとおりです。

化成品・樹脂セグメント

ナイロン原料のカプロラクタムは、世界的な景気の減速や中国市場での他社新設備稼働開始に伴う需給緩和により市況が低迷し、スプレッド（製品と原料の値差）は好調だった前年同期に比べ大幅に縮小しました。ポリブタジエン（合成ゴム）も中国需要低迷の影響を受け、出荷は前年同期を下回りました。一方、ナイロン樹脂はエコカー補助金の効果などもあり、自動車向けを中心として好調で、工業薬品も総じて堅調に推移しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ58億3千3百万円減の1,093億7千1百万円、連結営業利益は98億8千8百万円減の38億9千万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第2四半期	1,093億円	38億円
前年同期	1,152億円	137億円
増減率	△5.1%	△71.8%

機能品・ファインセグメント

リチウムイオン電池用の電池材料については、セパレーターの出荷は車載需要の立ち上がりに伴い伸長しましたが、電解液の出荷は国内民生需要低迷の影響を受け低調でした。電子情報材料分野での需要回復遅れにより、薄型テレビ向けフィルムを中心とするポリイミドの出荷も伸び悩み、太陽電池生産部材向けを中心とするセラミックスなど、多くの機能性材料で出荷が低調でした。ファインケミカル製品は、総じて市況低迷の影響を受けました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ14億4千1百万円減の321億4百万円、連結営業利益は18億5千6百万円減の18億6千4百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第2四半期	321億円	18億円
前年同期	335億円	37億円
増減率	△4.3%	△49.9%

医薬セグメント

抗アレルギー剤や血圧降下剤、抗血小板剤の自社医薬品を中心として、原体・中間体の販売は順調に伸長し、ロイヤルティ収入も増加しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ18億7千1百万円増の56億9千2百万円、連結営業利益は12億4千8百万円増の19億4千8百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第2四半期	56億円	19億円
前年同期	38億円	7億円
増減率	49.0%	178.3%

建設資材セグメント

セメント・生コン及び建材製品の出荷は、マンション・住宅着工や企業の設備投資が持ち直すとともに、復興需要も出始めたことから、前年同期を上回りました。各種廃棄物の原燃料へのリサイクルも堅調でした。カルシア・マグネシア製品の販売は、自家発電設備の排煙脱硫向けの出荷は堅調でしたが、鉄鋼、電子情報材料向けの需要は低迷しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ7億1千万円増の1,015億3千5百万円、連結営業利益は16億7千4百万円増の45億8千2百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第2四半期	1,015億円	45億円
前年同期	1,008億円	29億円
増減率	0.7%	57.6%

機械・金属成形セグメント

自動車産業向けを中心とする成形機は、新機種の市場への浸透が進み、受注は新興国・北米向けを中心に増加しました。堅型ミルや運搬機等の産業機械は、円高や国内外メーカーとの価格競争の激化等により受注では厳しい状況が続きましたが、足元の出荷は堅調でした。製鋼品は、市場の需要低迷及び円高の影響を受け、出荷は低調でした。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ7億9千万円増の343億6千5百万円、連結営業利益は10億2百万円増の16億3千1百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第2四半期	343億円	16億円
前年同期	335億円	6億円
増減率	2.4%	159.3%

エネルギー・環境セグメント

石炭事業は、販売炭の売上数量、コールセンター（石炭中継基地）の取扱い数量とも、化学、製紙会社向けを中心にして好調でした。電力事業は、燃料である石炭価格の下落及び電力需給逼迫に伴う売電価格上昇により採算が改善したことに加えて、IPP発電所にかかる補修費が前年同期に比べ減少しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ46億3千3百万円増の354億4千5百万円、連結営業利益は11億8千1百万円増の26億9千9百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第2四半期	354億円	26億円
前年同期	308億円	15億円
増減率	15.0%	77.8%

その他のセグメント

その他の連結売上高は前年同期に比べ1億6千8百万円減の123億8千4百万円、連結営業利益は4千2百万円増の4億4千2百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第2四半期	123億円	4億円
前年同期	125億円	4億円
増減率	△1.3%	10.5%

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期末の総資産は前年度末に比べ、受取手形及び売掛金が53億1千2百万円減少しましたが、商品及び製品などのたな卸資産が74億2千9百万円増加したことなどにより流動資産が36億5千9百万円増加した結果、49億7千1百万円増加し6,699億3千6百万円となりました。

負債については、有利子負債が43億1千9百万円減少し、また支払手形及び買掛金が26億1千5百万円減少したことなどにより、82億8千9百万円減少し4,322億6千9百万円となりました。

純資産は、剰余金の配当により利益剰余金が50億3千5百万円減少しましたが、四半期純利益により利益剰余金が84億6千1百万円増加、タイ国子会社における第三者割当増資の実施などにより少数株主持分が76億9千1百万円増加、また為替換算調整勘定が28億9千万円改善したことなどにより、132億6千万円増加し2,376億6千7百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の経済情勢につきましては、新興国の成長が鈍化するなど世界経済は減速の動きが広がり、国内経済においても輸出の低迷、デフレの影響など、事業環境は一段と厳しさを増しております。

こうした情勢を踏まえ、通期の業績予想につきましては、平成24年10月15日に公表しました通り、売上高6,380億円、営業利益360億円、経常利益300億円、当期純利益160億円を見込んでおります。